

2023年度活動記録集 (挿し木プロジェクト)

崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト)とは?

京都市立芸術大学および京都市立美術工芸高等学校の移転などの新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共にあった元崇仁小学校、元崇仁市営住宅、元崇仁保育所などで命を育んできた樹木の挿し木を試み、地域住民とともにその成長を見守り、土地の記憶や人の繋がりを継承しながら、いずれしかるべき場所に木を地植えして返すことを目指すプロジェクトです。2021年度よりアーティスト・山本麻紀子を中心に、崇仁すくすくセンター実行委員会を立ち上げ、主に、崇仁デイサービスうらおいと京都市下京・東部地域包括支援センターとの関わりを軸に、様々な方との作品づくりも行っています。すべての挿し木の地植えを目標に、2030年を目途に計画をたてて活動を進めています。

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト） 2023年度・年間の活動紹介

2023年4月、崇仁地域に京都市立美術工芸高等学校が、10月には京都市立芸術大学が移転オープンしました。こうした大きな変化に伴う転居やコロナ禍による繋がり希薄化が課題となっている崇仁地域において、崇仁デイサービスうるおい、京都市下京・東部地域包括支援センターと協働で地域住民の方々との関わりを続け、「大きなピクニックマット制作」と「花壇づくり」を実施しました。また、プロジェクト初となる挿し木第一号であるアジサイの地植え会では、看板づくりなどに崇仁児童館の子どもたちと京都市立芸術大学の学生さんにも参加していただきました。挿し木の見守りに関しては、プロジェクトに賛同いただける方々に少しずつご協力をいただき管理・育成をしていただいています。

『大きなピクニックマット制作』

2022年12月半ばから「大きなピクニックマット制作」がスタートしました。地域の方が持ち寄られた衣類などを使って、崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんと地域にお住まいの有志の皆さん(すくすくほがらか隊)を中心に、京都市立芸術大学の学生さんなどにも関わっていただき、1年2ヶ月かけて制作をしました。また、地域で長く活動を続けておられる「健康すこやか学級」や「読み書き教室」に参加し、一緒に制作をさせていただいたりもしました。ご高齢の方でも無理なく関わっていただけるよう、作業療法士の方からアドバイスもいただきながら、4つの制作工程を設けました。さらに、様々な理由から外出できない方とのつながりをつくる「在宅ワーク」を取り入れたほか、近隣住民の方が集う喫茶アミーにご協力をいただき、お茶を飲みながら制作に関わっていただく機会をつくりました。居宅介護支援事業所が把握しておられる外出できない方へのアプローチを見据え、ケアマネジャーの方々にこの取り組みを知ってもらう場も設けました。様々な人が作品を通してつながる、そんな思いが詰まったピクニックマットです。このピクニックマットには、現在の大学や高校が移転する前にその敷地内で生きていた植物や、京都市立芸術大学の沓掛キャンパスで生きていた植物で染めた布もひっそりと混じっています。

2024年2月に、「大きなピクニックマットお披露目会」を開催し、制作に関わってくださった方々だけでなく、たくさんの方に完成した作品をご覧いただくことができました。大学・高校の移転やコロナ禍により生活環境が大きく変わった地域にとって、コミュニティの活性化(居場所づくり・やりがい意識)につながったのではないかとたくさんのご意見をいただきました。



衣類を細長く切る 三つ編みをする



ぐるぐる巻きをつくる



ぐるぐる巻きをひもでつなげていく



2020年度に京都市立芸術大学移転予定地内で生きていた植物で染めた布



京都市立芸術大学・沓掛キャンパス内の植物で染められた布



京都市立芸術大学構想設計専攻の学生との制作



いきいきちいさな芸術祭でのワークショップの様子(蓋掛広場にて)



在宅ワークセット

-京都市下京・東部地域包括支援センター職員より

最初の頃は、「いつまでやるんや?」と先の見えない活動に不安の声もありましたが、週を重ねるごとに形がピクニックマットらしく大きくなっていき、「はよ完成させな!」「もっと大きくしよう!」とすくすくほがらか隊の皆さんの気持ちが1つになっていきました。時には怪我や持病で、手先が上手く動かせない、通院日が重なって活動に参加できないこともありましたが、しかし針に糸を通す人、縫い合わせる人、糸を切る人など、自分にできる役割をそれぞれ見つけて、支え合いながら活動をしてきました。自分たちで作り上げたマットの上で、皆さんと楽しくお話ができる日が楽しみです。

-崇仁デイサービスうるおい職員より

“布を切る”“三つ編みにする”“ぐるぐる巻きにする”もはやこの制作がデイサービスで過ごす理由の一つとなっている方がたくさんいらっしゃいます。

*鉋を使って布を断つことがとても上手な、手先を使う仕事をされていた男性 *三つ編み作成方法をみんながやりやすい様に工夫した、機敏で機転の利く女性 *三つ編みの大きさや固さも均一にしたい、きれい好きで周りのお世話が好きな女性 *ぐるぐる巻きを固定するバンドを補充する、建設業をされていた男性 テーブルを出して数人集まり、そこで音楽を聴きながら普段の何気ない会話をしつつ作業をするというのが日常になっていました。自分の仕事だと捉え、自宅に持ち帰って作業をする方もいらっしゃるくらい集中(熱中!)していました。色の違いやちょっとしたデコボコも、もはや愛しい日々です。それぞれの方が自分のもっている力を結集して、このマットは出来上がっています。



在宅ワークで制作をしてくださった方



喫茶アミーでもご協力いただきました



大きなピクニックマットづくりのチラシ



『大きなピクニックマットお披露目会』

会期：2024年2月25日(日)～3月3日(日)10:00～17:00 ※2月27日(火) 休館
 会場：京都市下京いいき市民活動センター（うるおい館）2階ロビー（〒600-8207 京都市下京区上之町38番地）
 主催：崇仁デイサービスうるおい 京都市下京・東部地域包括支援センター 共催：崇仁すすくセンター実行委員会



最終仕上げの様子



展示会場に仮置きした様子

「大きなピクニックマットお披露目会」の会場風景



花壇の土づくり

『花壇づくり』

うるおい館1階の南西角にある花壇は、崇仁デイサービスが管理をしています。その花壇の真ん中には、2023年6月に、すすくセンターの挿し木のアジサイが地植えされ、のびのびと命を育てています。その周囲を彩るため、ビオラとパンジーを種から育て、デイサービスうるおいのご利用者さんや地域にお住まいの方に、約1ヶ月の間、ご自宅で苗の成長を見守っていただきました。3月上旬に、またその苗を持ち寄っていただき、花壇に寄せ植えをしました。この花壇が、住民や地域に関わる方々が、世代を超えてつながり、集いの場所になることを目指しています。



パンジーとビオラの種まき



パンジーとビオラの苗



ご自宅で苗を育ててくださった方々





植え付け会の様子



- デイサービスうるおい職員より

「種から育てたことないからどんな花が咲くか楽しみ。ピオラは寒さに強いけど、私は寒いときには家のなかに入れてやるのよ。」とおっしゃっていました。お迎えの時に自宅玄関前にあるピオラとパンジーをみると、さらにすくすくおおいに育っていました。

その他、苗をご自宅に持ち帰ってくださった方々から、「全然大きくならんわ」、「日が当たればよかったけどこしばらく天気が悪かったから思ったより大きくならなかった」（十分大きいのですけどね）、「ちゃんと水やってたしな〜」「植えてもらえてよかったな」、「全然大きくならなかった。大きい方を持ってってください」、「土を毎回触って乾いているか確認していた。根腐れしないように。過保護にするとだめになっちゃう。」など、日々大切にお世話してくださっている様子がうかがえました。

- 京都市下京・東部地域包括支援センター職員より

男性80代の方。2/16お花の苗をお預けする為、ご本人宅を訪問する。ご本人より「お待ちしていました。わあ小っちゃいね。」と話される。ベランダで育てる用に、トレーを自作したと話され見せていただく。木製のトレーであり、丁度苗が2つ乗る大きさであった。（もともとDIYが得意な方。ベランダには木材で自作された棚があり、物を収納している。ベッドも自分で高さをあげられるよう、後付けの足を自作して収納スペースを作られている。）余った木材でトレーを作成しました、とのこと。

3/1ご本人より「大きくなったぞ。雨や雪もあつたけど、日当たりだけはいいからね。」と話される。ベランダで育てていた苗を玄関に用意してくださっており、パンジーもピオラも元気に成長していた。ありがとうございますと伝え、どちらか1つ差し上げますと伝えると「いやいや、2つで一緒にいたんやから。片割れがいなくなると寂しいやろうし、一緒に地植えしてあげてください。また暖かくなったらラジオ体操にも行きたいし、その頃には咲くかな。」と話される。どちらの苗も回収させていただくこととなり、また咲いたらお知らせしますねと伝える。地植えの日程もお伝えし、晴れたら行きますとのこと。

『大きなピクニックマット制作』『大きなピクニックマットお披露目会』『花壇づくり』

協力：崇仁自治連合会 崇仁学区社会福祉協議会 崇仁識字学級 喫茶アミー アドナース訪問看護
京都市下京ケアプランセンター つばき居宅介護支援事業所 鳥羽ホームケアプランセンター
京都市立芸術大学構想設計専攻 京都みどりクラブ 京都市下京いきいき市民活動センター
助成：下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO + GOOD」令和5年度採択事業



《その他の活動紹介》

●「ありがとう崇仁浴場」展の装飾協力

2023年3月末に崇仁第二浴場が100年の歴史を閉じ、崇仁地域にあった全ての市営浴場が閉鎖しました。地域の交流の場であり、住民の健康を担っていた浴場への感謝の気持ちを表す展示会に参加させていただきました。崇仁デイサービスうるおいのご利用者さん、すくすくほがらか隊の皆さんと一緒に制作している、大きなピクニックマットの素材である布編みで展示装飾をさせていただきました。

【ありがとう崇仁浴場】協力団体として参加

第一会場

会期：2023年3月24日（金）～3月31日（金）

16:00～18:00 ※月曜日休み

会場：崇仁第二浴場待合室

第二会場

会期：2023年4月26日（水）～5月10日（水）

会場：京都市下京いきいき市民活動センター1階ロビー



崇仁第二浴場待合室での展示装飾の様子



写真提供：崇仁発信実行委員会



京都市下京いきいき市民活動センターでの展示・制作の様子





●アジサイの挿し木の地植え会+挿し木鑑賞会 / うるおい館南西角花壇&京都市下京いきいき市民活動センター1階ロビー

日時：2023年6月23日(金) 14:30～

会場：うるおい館・南西角の花壇

うるおい館南西角にある花壇に、2020年4月28日採取し、挿し木にした、崇仁市営住宅23棟南側で生きていたアジサイを地植えしました。当日は、地域住民の方々をはじめ、京都市立芸術大学関係者やプロジェクトに関心を持ってくださる方々総勢80名にお越しいただき、花壇の真ん中に心を込めてアジサイを植えることができました。また、その他管理中の挿し木もご覧いただきました。

崇仁市営住宅23棟南側で生きていたアジサイ



アジサイを植える花壇の土づくりの様子



アジサイを守る猫除けのためのメッセージ布づくりの様子



●挿し木のみまもり隊

2021～2022年度は、主に、滋賀県の山本のアトリエで挿し木の管理を行ってきました。アトリエが山間部にあり、何でも食べる鹿が頻りにやってくるので、屋内(土間)での管理をしていましたが、やはり植物の生育環境としては良好ではないことや、いずれ崇仁やその周辺地域などに地植えすることを念頭に置いているため、できるだけ市内の環境に近い場所で挿し木の生育を続けられるようにしたいと考えていました。



挿し木を見守ってくださった方々

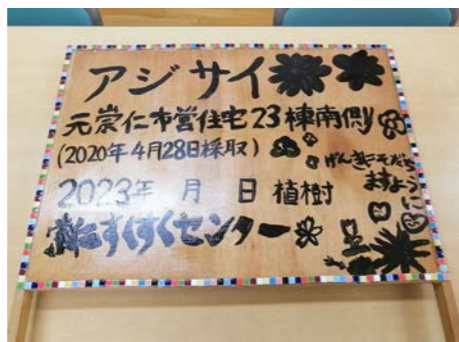
2023年度になり、徐々に本プロジェクトを知ってご理解して下さる方との出会いがあり、京都府下、京都市内、滋賀県大津市の5ヶ所で挿し木の管理をしていただけることになりました。挿し木になって3年目となり、だいぶ成長が安定しているものも増え、バラとムクゲは花を咲かせてくれました。しかし、今年度は気温の変化が著しい時期が多く、そのため不調になり枯れてしまう挿し木もありました。日々欠かさず様子を見ているつもりでも、もっともっと天候や環境に敏感に反応しないといけないのだと大変反省をしています。



京都市立芸術大学の学生と崇仁児童館の子どもたちと一緒に



ほがらか隊の皆さんと看板を完成させる



完成した看板



バラ (元崇仁保育所・2020年7月22日に枝を採取) ※お花が咲きました



ムクゲ (元崇仁市営住宅・2020年4月28日に枝を採取) ※お花が咲きました



ナツミカン (元崇仁小学校・2020年6月26日に枝を採取)



クチナシ (元崇仁市営住宅・2020年4月30日に枝を採取)

●2024年3月の時点で順調に生育している挿し木の樹種と本数

- <崇仁市営住宅より>
アジサイ×3本 クチナシ×1本 ムクゲ×1本
 - <崇仁小学校より>
アジサイ×3本 ナツミカン×7本 ヒメクチナシ×2本
 - <崇仁保育所より>
マサキ×2本 バラ×2本
- 残り合計21本



挿し木の見守りお願いのチラシ



アジサイの地植え会+挿し木鑑賞会の様子



冬の間は簡易ビニールハウスの中で管理しています

●ほがらか隊で藍を育てました
/ うるおい館南西角の花壇

アジサイの挿し木を地植えした花壇の空いているスペースで藍を育てて、生葉染め(たたき染め)をしました。金づちや工具を使ってトントンしながら、それぞれ工夫をして布に配置をし、緑から青に変化する色も楽しみました。今後、トートバッグや携帯入れなどにして活用していきます。



花壇西側に藍の植え付け (2023年7月5日)



藍の看板づくり



藍のたたき染め
(2023年8月)

●崇仁文化祭に参加

/ 京都市下京いきいき市民活動センター 2階

会期：2023年11月4日(土)～12日(日)

会場：京都市下京いきいき市民活動センター

毎年、崇仁地域の様々な団体の取り組みや活動をご紹介されている崇仁文化祭にて、主に、崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんやほがらか隊(毎週水曜日に有志で集まってくる地域の方々)の皆さんと制作している「大きなピクニックマット」について、制作途中の様子をご紹介させていただきました。



崇仁文化祭での展示風景

●崇仁高瀬川保勝会の川そうじに参加しています

月1回崇仁地域の高瀬川の川そうじに参加させていただいています。崇仁高瀬川保勝会による歴史と文化と自然環境保全のための提案「崇仁地域高瀬川博物館構想～楽しんで歩ける回廊空間～六条村跡プロジェクト」に、崇仁すくすくセンターの挿し木の地植え場所のプランを組み込んでいただける方向でご検討いただいています。



写真提供：崇仁高瀬川保勝会

●京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL 2023-」との関わり

挿し木1つ1つのこれまでの経緯が閲覧できる「挿し木のアーカイブ」のウェブページの作成、京都市立芸術大学敷地内における挿し木の地植え場所の実現に向けてのご協力をいただいています。

●崇仁すくすくセンター 2023年度活動報告座談会

2024年2月25日(日)～3月3日(日)に開催した「大きなピクニックマットお披露目会」の会期最終日に、2023年度崇仁すくすくセンター活動報告座談会を開催いたしました。

日時：2024年3月3日(日) 14:00～15:30

会場：京都市下京いきいき市民活動センター(うるおい館)2階・会議室1

(〒600-8207 京都市下京区上之町38番地)

参加費：無料

定員：20名(事前予約制・先着順)

登壇者：崇仁すくすくセンター実行委員会メンバー

※本企画は、下京・南まちなかアートに参加していました。



座談会の様子

●「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」のおはなし

1年を通して、崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんに、挿し木に触れていただきながら、おはなしくださった内容を記録しています。この記録は今後も続けていき、いずれ地植えされる挿し木とともに大切に未来に残していきます。

日時：2023年5月23日(水)

/ 崇仁小学校のアジサイ①と

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：K.G.さん 年齢/年代：80歳代

あらー。覚えてますよ!こないだ家に足を治しにきてくれましたよね?え?違いますか?看護師さんと違う?へー。そっくりだわー。よう似てるわー。ごめんなさいね。失礼しました。

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

わあ、私アジサイ大好き!へーこれ、3年目なの?いいですねえ。いいねえ。アジサイ見てたら、怖いことから救われるような、何でもできるようなとても嬉しい気持ちになるんです。これ、お花咲きますよね?どんな色でしょうね。本当に楽しみです。私ですか?はい。ある方からアジサイいただいてカーネーションと一緒に育ててました。青紫色のお花やったかな。私はね、鴨川から小さい川が流れてるでしょ?あ、そうそう、高瀬川。高瀬川沿いの一軒家に住んでいたの。そこで育ててました。私には、園芸の専門家の友達がいるからね、その人にいろいろ教えてもらいながら育ててましたよ。でも、この辺りであんまり大きなアジサイは見ませんねえ…え?あ、そうかそうか!そうやね!あるある!児童館の前ね。あるわ!

私は崇仁小学校出身です。息子が小学校に通いだした頃に、ちょうどプールができましたよ。それで息子は大喜びでプールで泳いでました。私は泳げません!先生ですか?先生は全然怖くなかったですよ。優しく。「あいつと仲良くしたらええことあるでー」って先生から言われたから、その通りその子と仲良くしたりしてました。その子は男の子でした。女の先生はいなかったかな。校長先生も男の人やったかな。だいたい男の先生。先生のお家に遊びに行ったりもしています。その先生は、たばこ屋さんのところに下宿していて、そこに遊びに行くと、「私をお嫁さんにしてください」って言ったら、「もうお嫁さんいるしあかんわ」って言われたんです。へへへ。ふふふ。断られちゃったの。おかしいでしょ?

あら、山本麻紀子さんっていうの!なんか石原裕次郎さんの奥さんみたいなお名前ですね。すてきだわー。ありがとうね。この子、頑張って育ててあげてね。お願いします。いつかお花一緒に見ましょね。その日を本当に楽しみにしていますから。

(記入者：山本麻紀子)

日時: 2023年10月19日(木)

/ 崇仁小学校のアジサイ①と

場所: 崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前: K.G.さん 年齢 / 年代: 80歳代

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

へー、そうなの？崇仁小学校の鴨川沿いの？土手のふちに咲いてたんやね。これは、鉢は植え替えないんですか？ああそうですか。1年に1回植え替えるんですね。この土の上のところに石ころ乗せたりせえへんの？そのほうが栄養もよくいき届くような感じするんやけど。この葉っぱ、とってもきれいな色やなあ。緑で。へー。栄養たっぷりの色してるなあ。きれい。きれい。近所の人が、よく挿し木っていうのやったはったよ。菊とかやったはった。私も家でもいろいろ育ててました。玄関に咲いたやつ、そうね、いろんな色がありました。藤色、ピンク、黄色、赤、そんな色を見ていたの覚えてます。玄関で、近所の人にもらったカーネーションとかね、お正月には生け花を生けてました。もうね、お花を見ていたら癒されるもんね。どうか、いいところに植えてあげてくださいね。本当にきれい。葉っぱがつつやつやで。私が欲しいです。ふふふ。だめですよね。この、ぼてっとしているところ、ボリュームがあっていいですね。

私ね、生け花の師範持ってるの。葉ボタン、若松、南天とか、生け花したの覚えてる。生け花は基本があってね、池坊に立花(室町時代に成立した最も古い様式) っていうのもあるんですよ。アジサイも生けたらきれいになるわよ。生け花の本を2冊持っていてね、誰かに見せてあげようと

日時: 2023年10月19日(水)

/ 崇仁小学校のアジサイ①と

場所: 崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前: A.W.さん 年齢 / 年代: 92歳

<崇仁小学校で生きていたアジサイに触れて>

葉っぱがとってもきれいやねえ。元気な気持ちになりますね。へえ、これが崇仁小学校にあったんですか？へえー。お花育ててたかって？家の前にお花をきれいにやってみました。私ではなく姉が育ててました。何やったかなあ、バラとかそういうお花やったかなあ。きれいに咲いたのは、誰か

思っていて、今も持ってるの。娘時代に、お花の先生のところに通ってて、先生を送っていったり、八瀬(やせ)のかまぶろにお母さんを連れていったりしたことを、今ぼんやり思い出しています。あれは、夢やったんかなあって、今になったら思うんやけどね。なんか夢みたいな話なんやけど、今でもよく覚えてる。八瀬はここからやと1時間くらいかな。

須原通り塩小路の角にお寺があったの。そう、かどやさんの向かいね。そこの地下でおじいさんが靴の卸販売をしてた。あとね、そのお寺でおじいちゃんが針をしてもらってた。お寺の娘さんとは私の姉と一緒に和裁を習いにいったね。ん？学校とかじゃなくて、近所のところにね。私のこどものための着物も縫ってくれてよう育ててもらいました。あ、そうそう、お寺の前に花屋さんがあったのよ。ほんでね、お寺の近くで、盆踊りもあったな。屋台が出て、やぐらも建ててね。やぐらの上で歌い手さんが歌ったはったよ。江州音頭みたいなね。それに合わせてみんなで踊ってた。遠くからも踊りにきてはったよ。

ん？私ですか？崇仁小学校、通ってましたよ。そうそう、私の同級生が校長先生になってました。私は、京都生まれ京都市育ち。主人は今ももう亡くなっていますけれど、東京の人なんで、東京男に京女です。ふふふ。何度か引っ越ししていますよ。ああ、今日はこんなにお話ができる本当に嬉しかったです。私のことどうか覚えておいてね。またお話してくださいね。この子のことも大事に育ててまたどこかに植えてあげてくださいね。お願いしますね。がんばれー。大きくなってねー。(記入者: 山本麻紀子)

が持って行ってしまったり、家の前の道に車が通るようになってね、だんだんお花育てるのもやらなくなってね。第一浴場の横はお家がなかったから、塀のところに近所の人たちがお花の鉢植えを置いたりして飾ってたけど、その道も車がだんだん通るようになって、市から撤去するように言われて、あんまり誰もお花を置かなくなりました。

私は、崇仁の郵便局の真ん前で生まれて育ちました。郵便局も、以前はふつうの民家でやっていましたよ。お家の1階を借りてね。そうそう、第一浴場のそばで生まれました。他に2つお風呂屋さんがあったけれど、第一浴場は、一番古くて一番大きかった。そうやねえ、まわりには、おぜんざ

い屋さんもあったし、天ぶらものあげるところとか、お菓子屋さんもあって、あの辺は商店がたくさんあってにぎやかやったよ。私のところも、家の前でおでん出していました。お昼間とかもね、みんなお鍋もって、おかずを買いに来たはったよ。家の前で、大きな鍋で炊いてた。あ、あのね、家のは、大根とか玉子はいれてない。じゃがいもがメインで、すじ肉、こんにゃく、おあげ、串にさしたごぼ天、ちくわ、かまぼことか。おでんですか？私が3代目。70代の時にはじめました。おばあさん、お母さん、それから私です。

第一浴場のところにお地藏さんいらっしゃるでしょ？あそこに、とってもきれいな桜が咲いてました。よく覚えています。今はあの辺はどんどん変わって行って、お風呂のところもガレージになって、私の家のところも空き地になっています。塩小路須原の角にお寺がありました。南西角です。お寺もようさんありましたよ。でも立ち退きになって。私

日時: 2024年1月17日(水)

/ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所: 崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前: 苺安早苗さん 年齢 / 年代: 74歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

これ、何の植物ですか？クチナシですか？へー。こんなに背が高くなっての。植物を育てるのは楽しいですよ。小さい頃、どんぐりを拾って鉢に植えて双葉の葉っぱが出て、幼稚園行って、また山に植えたりとかしてました。今、家でやってるのは、タッパーに水を入れて、窓の台のところに置いて、大根やセリや豆苗を育ててます。食べるためではなくて、生ごみになるへたの部分の水につけて置いたらとってもきれいな葉っぱが出てきて、その色や形がきれいで見えています。

私ですか？私の生まれは、山梨県の猿橋というところですよ。甲州街道の宿場町のあたりです。薬局のご夫婦が幼稚園を開かれてね。幼稚園からちょっと行ったところに滝があって、その滝を使った温泉もありました。通りのすぐ向かい側に行ったら山があって、自然豊かなところでした。18歳まで山梨にいて、それから東京に引っ越しました。吉祥寺の辺です。それから京都に来ました。来た頃は、こっちの言葉が全然できなくて、みんななんか

のところのお寺も宇治のほうに引っ越していったしね。高倉通りの願教寺は、お寺そのまま残ってますね。ああ、そうそう、第一浴場の近くでも、盆踊りやってたよ。もうでもね、今はみながお年寄りばかりよ。それも奥さんだけ残って、おひとりでお住まいの人ばかりですよ。

崇仁小学校は6年と2年、合計8年いました。中学がまだできていなかったから、高等科に行きました。私らが卒業したくらいに、中学ができたように思います。なんせ戦争中やからね、6年で卒業をして落下傘をつくったりする仕事をする人もいたけど、まだこどもみたいな時分やね。私らが小学校行った頃は、1学年3クラスくらいありましたよ。今はこどもが少なくなってるから、1学年1クラスくらいなんやろうか。合併したりしてるやろうけど。

(記入者: 山本麻紀子)

怒ってるの？とかそういう感じでした。でも、主人は、標準語のままでもいいよって言うてくれたので、私は標準語のままです。でもね、景色はちっとも違和感がなかったですよ。山梨はとにかく緑が多いでしょ？京都もね、少し道を行ったら山が見えるので、違和感はなかったです。私の住んでいるところからは、むかしは東山がどーんと見えていたんですが、もう建物がたってしまっって見えなくなってしまいました。大文字の「大」の一部(右側)も見えたんですよ。「大」の3画目のはらったところのあたりがね。それで、反対側の「大」も屋上に行くとも見えんですよ。でもこれも背の高いビルが1つ建ってしまっって、もう見えなくなりました。

いろいろ思い出しますね。兄が旅館をやってるので、私たち夫婦はその旅館を手伝っていたんです。コロナ前の最後の頃、旅館に中国の方が来て、おおみそかの日に智積院と一緒に鐘つきに行きましたよ。鐘は山の手前あたりにあって、そうねえ、夜の10時頃に行くと、もうたくさんの人が並んで、順番に鐘をついていきました。大根煮もいただきました。京都は賑やかな町ですけど、山があって、お寺もたくさんあっていいところだと思います。お話しているといろいろ思い出してきます。また、お話聞いてくださいね。よろしくお願いします。

(記入者: 山本麻紀子)

日時：2024年1月17日(水)

/ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：H.N.さん 年齢 / 年代：87歳

こんにちは。はじめまして、ですね。よろしくお願ひします。あら、あの大学で教えてはるの？そうそう、こないだその大学に行ったんですよ。寄合があった帰りにね。61か62歳くらいの男の人、社長さんと一緒に、大学の校長先生もいはった。女の人ですよ？私ね、一度でいいからその校長先生に聞いてみたいことがあったの。ここに大学を移した、その気持ちをね、一度でいいから聞いてみたかったんやけど…ちょうど友達がお地蔵さんところに行きたいからって言われたから、その友達についていったから、校長先生と話せなかった…本音をね、聞いてみたかった。この、怖い、汚いって言われてきたところに来てどんな気持ち？思い？なのか、直接聞いてみたかった。本音をね。今は、54棟の大学の様子がよく見え

るところに引っ越して住んでるの。日が暮れた時につく電灯がどんなにきれいか！ほんとにきれいなんですよ。素晴らしいんです。だから毎日、日が暮れるのが楽しみなんです。一度見てほしいわ。本当に素晴らしいですから。でもね、こないだこのあたり歩いていたらね、男の人3人が歩いてて、すぐそばに私がいたのに、「ここは、がらの悪いビルやったのに」とかそういうこと言いながら歩いてはって、「ほっとけ！」って思いました。え？新しいところですか？そうやねえ、半分くらいしかまだ住んでないと思います。

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

へー。そんな大きなクチナシあったかなあ。いい香りがするお花ですよ？この辺にも生えているのとちがいますか？ああ、そうですか。その辺にあるのはもう少し小さいお花ですか。それにしてもかわいいですね。ぐんぐん育ってるのがよくわかります。嬉しいです。もっと大きくなるんですよ？いいですね。わくわくします。

(記入者：山本麻紀子)

日時：2024年1月23日(火)

/ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：S.M.さん 年齢 / 年代：89歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

あら。挿し木ですか。北千住に住んでる私の友達のご主人が、お庭で挿し木をしたはって、上手にされていました。でも難しいんでしょう？このクチナシは1本だけしか残ってないんですか？それでも1本残ってるのはすばらしいです。私はベランダでお花とか育てていましたけれどね。私もお花が好きで。ユリが大好きで、母の日とかにユリの鉢植えをもらうので毎年大事に育ててました。匂いが嫌っていう人もいますよね、でも私は大好きで。アジサイも大好きです。24棟のところにアジサイが咲いててね、宿替えをする時に、アジサイ持って行っていいよーって言われたんですけどね。挿し木は難しいでしょう？ユリとか、アジサイとか、沈丁花大好きです。沈丁花は咲いてるときはすごくかぐわしい匂いがするのに、切ると全く匂いせえへんのね。キンモクセイもいい匂いするねえ。

私は大阪の難波の近くが生まれです。23歳で結婚して崇仁

に来ました。結婚して65年です。京都にいるほうが長いです。結婚前に私が勤めてたところは、千日前・難波のあたりでも賑やかなところでした。初めて京都に来た時は、わあなんて静かなところやと思いました。でも、地域の皆さんとお話をさせてもらったり、主人が地域の役員などいろいろしていましたので、皆さんお父さんのこと知ってるし、いろんなこと聞かせてもらて。最初はね、市営住宅の22棟の5階に住んでいました。エレベーターがないし、主人も脚が悪くて大変やったたので、同じ棟のおじいちゃんとおばあちゃんが3階に住んでいたお部屋に引っ越しました。それから24棟ができて、そこにはエレベーターがあったので24棟の2階に引っ越しました。今は新しい市営住宅に住んでいます。

今は主人は病院にいますけれど、家に一緒にいる頃はね、家では全然しゃべらへんの。娘もよう言いました。お父さんは家の敷居をまたいだら、なんでそんなに性格が変わんの！？って。外ではようしゃべるみたいなんですけどね。でも家でも怒ったこともないし、娘に何かしたりとかもないし、まあまあ静かな人ですよ。52歳か53歳の時に、頸椎の手術をして、その後どうにか退職して勤めていたところも全部辞めて、地域のことやりました。その頃は元気やったんですけど、しばらくしてそれが終わって70歳になった頃から体力がぐっと

落ちてしまいました。あのね、私は10月9日がお誕生日なんですけれどね、こないだの10月末に病院に面会に行った時、「お前も89歳になったなあ」と言って、チャーんと私の誕生日覚えてくれてたんです。「わしも、3月になったら93歳になるなあ」って、自分の誕生日もしっかり覚えてて、「ぼけてへんなあ。よかったなあ。」って言ってました。それでもね、やっぱり、あんまり人としゃべらへんせいか、時々妄想にかかったような話をしていることもあります。

私も脚が丈夫な頃は、三室戸寺にアジサイ見に行っていました。あと奈良のほうにも。山全体がアジサイで、それはそれは美しいです。主人も連れて行きました。主人とは、花の季節がいい時によく旅行に行きました。旅行もね、最初に誘った時は、「行かへん！」って言うんですけど、その日になると黙ってついてくれるんです。私らのお寺は西光寺さんで、前の住職さんは女の人やったんですよ。和顔(わげん)会という会をこしらえて講話やったり会長をしたりしてたんです。それ関係の旅行も最初は首振るけど、当日はついてくれるんです。

鴨川沿いのサクラも見に行っていましたよ。あとね、柳原銀行のところに1本サクラがあって、鴨川まで行けない時は、そのサクラもよく見に行っていました。

日時：2024年1月23日(火)

/ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：米戸数子さん 年齢 / 年代：81歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

へー。3年でこんなに大きくなったんやなあ。挿し木って難しいんやろ？クチナシか…どこに生えてたんやろう、分からへんなあ…渡哲也やったかな…クチナシの花っていう歌もあるなあ。ええ歌やなあ。芸大な。芸大は今度、来週、地域包括の宮崎さんと一緒に行く予定で、これまでも何度か行ったよ。芸大の先生がやったはるやつに参加してる。大学なあ、まだ馴染みがないし、ちょっと行きづらいなあ。学生食堂がないのは、かわいそう。用意しとかなあかんわなあ。前のところはそんなことなかったんちゃうの？食堂の設備が整って業者が入って食堂を営業したはったんやろ？かわいそうやなあ。

生まれは崇仁です。そのあともずっと崇仁。郷之町南部の辺。今は空き家というか、空き地ばかりのところ。結婚してから、

この子、どこに植えてあげましようね。やっぱり生きていたところと近いところがいいでしょうね。きちっと育ててくださいよ！私が生きている間にお花を咲かせてください。もうすぐ地面に戻れるらしいから、頑張って！（クチナシの葉っぱをトントンとされる）こうしてここまで丈夫に育ててもらってありがとうございます。地面に戻ってからどのくらいでお花が咲くでしょうねえ。嫌なことがあっても、お花を見たら気持ちが和らぎますからね。いろんな人の心を和ませてください。元気で花を咲かせてね。お願いしますよ！いい匂いを放ってよ！

植物を育てることは、子育てと一緒にですね。子どもの育て方、悩んだ時期もありましたよ。給料が少なくて月謝を払うのも難しかったけど、小学校からこどもたちに私学に通わせることを優先しました。それで、娘も息子も無事に就職できました。主人は教育のことは何も言わなくて私任せでした。そんな中自分で何を優先するか決めて進めていきました。きっと植物の命を育てることも、同じようなことやと思います。だから大変やと思いますが、どうかこれからもこの子をよろしく願ひします。

(記入者：山本麻紀子)

南に行った市営住宅に。小学校か？崇仁小学校や。年1回マラソン大会あってな、京女のところからずっと走って、小学校の運動場まで。マラソンから帰ってきたら、おぜんざいもらえたで。男の子らとちゃんばらごっこしてたの覚えてるわ。先生はみんな一生懸命してくれた。夜遅うまで学校に残ったはった。

昔はもっと住みやすかったな。近所同士が助け合ったりな。玄関の表で魚焼いたり、近所の人とおかず交換したり、そんな頃、ぐれる子どももおらんかった。みんなで子ども見てたしな。心がけてたし。葬式とかもみんなで手伝ってた。元氣か一言うて、毎日家を覗いてくれはるおばさんもいたわ。まあな、時代に応じて変わっていかなあかん部分もあるねんけど、でも私らは昭和のほうが良かった。正直な。子どももたくさん産んで、服なんかつぎはぎだらけでよかったんやん。昔のままでは何も上達せえへんけど、昔のほうが情けがあったんちゃうかなあ。新しい団地とかな、災害とかに関しては鉄筋やし安心やけどな。でもな、昔のほうが貧困差がなかったように思うわなあ。だからこそみんなで助け合ったり、手伝ったり。どんな時代でも、人に迷惑かけちゃあかんとか最低のルールは

あるけどな、大事なものが失われてるような気がする。私が歳とったっていうのもあるけどな。便利になりすぎてついていけへんことで、結局不便やわな。でも、一方でな、今では、こういうサービスみたいな施設があることで、こういうところがあるから、私らのパイプ役になってもらえて、安全で安心をもらえてるっていうところもあるやんか。昔はこんなサービスがあることなんか知らなかったしな。だからほんまに助かってる。今のええ面と、昔のええ面と。両方あるわな。サービスは去年から来てる。宮崎さんには、お父さん(旦那さん)の時からお世話になってる。ようしてもらってる。そのうちえらいさんになるやろうなと思ってん。そしたらやっぱり宮崎さん、

日時：2024年3月5日(火)

/ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所：崇仁サービスうるおいフロア内

お名前：高橋のぶ子さん 年齢 / 年代：88歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

これやってんのん?(クチナシの葉っぱをトントンされながら)へー。ああ、お風呂屋さん(元第三浴場)の近くに咲いてたんか?どこや?ああ、北側なあ。そうかー。そんなんあったかなあ。え?花壇?そののか?ああ、わかる。あの花壇の真ん中のアジサイか?23棟の南側に咲いてたんか。そうかー。私は25棟やった。芸大来るからってそこの交番所の並びのところに引っ越したんやけど、このサービス来る途中にこけてしまっ。息子から、もう一人で暮らすのはあかんて言われてな。今は菊浜のほうで息子と住んでるねんけどな、でも私はやっぱりこのあたりがいい。町内が懐かしい。知り合いもいるし、ずっとここで生きてきたしな。え?まあ、そうやなあ。サービスに来たら知り合いにたくさん会えるし、そうや、楽しいで。

芸大なあ、ここに来ること決まってからあっちゅうまやったな。それまで一苦労したのに、あっちゅうまやったわ。あとなあ、こういう新しい住宅建つとな、近所の付き合いが無くなってしま。まわりのことがよう分からへん。

滋賀の近江八幡からここに来ました。そうやなあ、確か19歳の時やなあ。なんにも知らずに来たんやで。そうや。なーんにも知らんとや。あのかなあ。私のおばさんが伏見にいてん。市電の運転手をしてる旦那さんと結婚して伏見に住んでたんやけど、その旦那に女ができてな、そのおばさんは私の実

センター長になったやろ?ほんまにこういう人がいてくれて助けてくれて感謝してるねん。

あのかな。色んな人が昔の崇仁のこと残そうとしてくれてはってありがたいです。あんたもこうして私らと一緒に育ってきた木を残そうとしてくれて、ほんまにな、ありがとうな。本当にありがたいと思っています。葉っぱもいい色してるし、ちょっとスリムすぎるかもしれへんし、もうちょっと栄養あげて、これからも面倒お願いします。ありがとうな。

(記入者：山本麻紀子)

家(近江八幡)に戻ってきたんや。それでもな、そのおばさんの伏見の家の近所の人らが、おばさんの旦那と話をつけてくれて、おばさんを連れて帰りにな、私の実家にきはったんや。で、おばさんが伏見に帰ることになって、荷物が多いから、私がおばさんの荷物を自転車に積んで、近江八幡の駅まで一緒に行ったんや。それで駅についたら、おばさんが、もうそれやったら京都までついて来てえなって言わはって。電車と一緒に乗って、京都駅に着いたんやな。駅についたら、高倉の下のほう、今のあのたかばしの辺を下がってきたら、そこはもう悲惨な家ばかりやった。こんなところで生活したはる人がいるんやて思っ。トイレも共同や、水道もガスも通ってへんやん。ほんで、狭い狭い路地を通り抜けできるようになって、あるところの通りを通った時に、男の人が暗いところで本読んではったんや。でな、それが見合いやったんや。え?いやー、その人が私のほうを見て目が合ったかってか?そんなん覚えてへんな。目が合ったとかはなかったように思うんやけど。そうや、仕組みまれてたんや。そう、おばさんに。それからしばらくは、伏見のおばさんのところに泊めてもらってな、その間は大手筋の映画館に行ったりして遊んでた。伏見の人は、この辺のことを、「きょう」「きょう」て言うねん。え?漢字か?知らんなあ。耳でしか聞いたことないしな。おばさんが「きょうに行こう」って、よう連れて行かれてた。そんなこんなで、結婚することになって、それを知った私の親からは勘当されたんや。でも、私は田舎に帰っても百姓仕事ばかりやるの嫌やったし、こっちにいたら映画も行ったりできるしいかなとか思っ。結婚を選んだんや。親はそうやなあ、京都駅前の悲惨な地域に嫁にいくな、そこに行くのであれば、親子の縁を切るって、そう言った。まあなあ。しゃあないわなあ。

ここに来て、旦那の仕事は決まってへんかった。私 came 頃は、このあたりは、京都駅前で人力車に乗せて旅館へ運ぶような仕事が多かったなあ。旦那は屠殺業をやった。屠殺って牛や馬を殺すんや。そんなん何や、そんな仕事あるんかって最初思っ。一回な、そこ見に行ったことあるねん。牛が石かなんかで頭ごつーんとやられて、それでべたって倒れていくねん。そんでまた次の牛が入ってきて同じことや。牛もまあその様子見てるのに、中へすいすい入っていくの、あほちゃうかとも思っ。でな、その頃に、オールロマンス事件というのがあって。あ、知ってるか?そうか。そのな、抗議運動にほれ込んでしまったんや。で、そういう運動をしていると、その噂を聞いて若い学生が私を訪ねにきてくれて、解放運動を僕らと一緒にやらへんか?このままやと、いつまでも差別差別と言われ続けてもしょうがないんやというようにことを言われて、どんどんのめり込んでいったんや。若い学生が集会とかするの、高橋さんの家でやってええか?て言われて、家でみんなで集まっていたんや。若い人らと話をする中で、「つくられたものは無くしていける」ということに触発されて、それで解放運動をしてきた。女性もたくさんはったよ。近所の人からは、私は変わりもんや…て言われたりしたなあ。でもな、やっぱりみんな運動やっていかな、この地域は良くならへん。土農工商や。これを、みんなで力を合わせて無くしていかなあかんって思っ。旦那か?集会してたら「出ていけ!」とか「部落なんかあらへん!」とか「差別は無くならへん!」とか言われて反対されてた。はあ、そうや。でもな、最後のほうは、一緒に運動してくれた。旦那が死ぬ時も、「お前がやってきたことは間違っへんかった」って言ってくれたんや。え?まあなあ、そうやなあ。私が外からこの地域に来たっちゅうのもあるやろうなあ。ああ、そうか、そうやなあ、そうかもしれんな。あんたが言うように、もともと私の中に正義感とか行動力とかそういうのもあったんや。やったらやっただけ1つ1つその結果が見えてくるしな。

家、四畳半一間やろ?そんなところで集会してるし、こどもは家で勉強できひんやんか。だから、学習センターを建てようとして一生懸命頑張ったんや。息子が小学校の時にな、行政に働きかけをしてな。今、このサービスがあるところは、昔お寺があった。え?あ、そうか。他の人も言ったはったか?そうや、お寺の奥さんに私らお裁縫習いに行っ。そうそう。そのお寺の隣にな、学習センターを立ち上げたんや。親が勉強教えれなくても、学習センターで学べるという場所ができたんや。竹口先生や森本先生らと一緒に運動した。隣保館も建てて、そこで調理師の免許をとれるような仕組みも作ったしな。

部落にいて勉強せえへんかったら就職できひんで、と長男によう言っ。それがな、息子からしたら嫌やったんや。私がご飯食べる度に言うてたから、うっとおしがられてた。その息子な、学習センターに行くって言うて、よう逃げ出しとったわ。ばれへんと思っ。たんや。私には、学習センターに見に行っ。すぐばれた。先生か?先生は、学校のお勤め終わった先生らが来てくれてた。

こどもはな、やっぱり親や。親に言われんことには気づへんことがたくさんある。これまでの経験を土台にしてな。今でも差別はあるやろ?一般社会との差を無くしていかなあかん。差別はいつまでも無くならへん、ここは部落や。でもな、そんなん恥ずかしいことでも何でもない。こういうことは無くしていけるんやと私は自信がある。

映画見たか?そうか、見てくれたか。映画とか新聞とかなあ…それから私のところに色んな人が尋ねてくる。私はな、自分からべらべらしゃべってるんとちゃうんや。話を聞きたいって言う人がいるから、その人に対して自分の経験を話してるんや。まだまだあるで。いつでもおいでな。サービスにいるしな。ありがとう。あ、そう、これ(クチナシの葉っぱを撫でて)頼むで。お願いな。また植える時、教えてや。

(記入者：山本麻紀子)

日時：2024年3月5日(火)

／ 崇仁市営住宅のクチナシと

場所：崇仁デイサービスうるおいフロア内

お名前：平井玲子さん 年齢 / 年代：80歳

<崇仁市営住宅で生きていたクチナシに触れて>

へー、これなあに？えー、何やろう。え？クチナシ？へーこの辺に咲いてたの？そうやね、いい香りがするお花やね。私、こないだまで、あの苗(パンジーとビオラの苗)を家で面倒みてましたよ。出したり入れたりしてね。え？そうそう、夜は霜がおりると大変やから家の中にいれて、朝になったら外に出して、おひさまが当たるところに順番に移動させてね。心を込めて育てました。私ね、何でもがむしゃらで何でもやっていますから。家のことでもね。そやけど、これは立派やなあ。葉っぱの色も青々してるし。元気がみなぎってる。あのね、私、仏壇の花でも伸びてくるのよ。なんでなんやろう。私も聞きたいなと思って。ふふふふ。伸びてくるのよ。いつも色んな季節のお花まぜていれてくれるお花ね、700円くらいするやつね、水に入れてたらどんどん伸びてくるのよ。水に入れてるだけやのに。なんでなんやろう。ほんまに。なんか私がまちごうてんのとちゃうかと思ってしまうこともある。お花、好き。娘は興味なくて、「お母さん、お花育てるの上手やなあ」っていつも言ってきます。へー。あのお風呂屋さんのへんか？へーそうかー。

私、崇仁小学校に行ってた。昔の先生は怖かったで。今やったら考えられへんけど、その当時は先生にたたかれて怒られたで。家に帰って「先生にたたかれた」言ったら、家の人に逆に怒られたもんや。「あんた、何悪いことしたんや！」って。今と全然ちやいますね。

私、今はあそこの住宅の6階に住んでるの。日当たりもいいし見晴らしいいですよ。え、ああ、そうやそうそう。こないだも地震あったでしょう？けっこう揺れるんですよ。家がミシミシゆうでたんですよ。怖かったですよー。ただただ家に隠れてたの。地震になったらね、エレベーターも止まるしね、どうしよう、どうしたらいいんやろ。近くの広場とかに行ったらええのん？でもそもそも下に降りれへんわなあ。どうしたらいいんやろう。あ、そうか。ほんまか、聞いといてくれるか？ありがとう。

こけてここ(左の足あたり)を骨折してから、この杖をついてます。3年間肌身離さず使ってます。3ヶ月です。3ヶ月入院しました。もうねえ、リハビリが長かった。日赤から紹介してもらってリハビリの病院に行きました。ああ、あの先が分かれてる杖ですか？あれねえ、安定してそうやけど、あれあの先の部分にけつまづくしあかんのよ、ああいうのは。

あなた学生さんでしょ？え？違うの？あら、私、また学生さんが来はったわって思っていました。こういうことやってるのね。(クチナシの葉っぱを撫でられながら) だいぶ伸びてるね。葉っぱが青々して元気がでるねえ。そうやねえ、最初はこんくらい(10センチくらい)の枝やったのに、根っこが生えて大きくなってくるんやもんね。不思議やねえ。根っこが出てくるなんて、本当にすごいことやねえ。そんで、いつかまた土に植えてあげるのん？そうかー。それは楽しみやねえ。大きく、大きくなるわね。いやー楽しみやね。若い頃はこういうの興味なかったけど、やっぱりお花はいいなあ。落ち着くしな。歳とったからこう思うようになったんやろうなあ。

(記入者：山本麻紀子)

崇仁すくすくセンター実行委員会メンバー紹介

委員長 山本麻紀子(アーティスト)

委員 安部良(安部良アトリエ一級建築士事務所)

監事 四元秀和(京都市文化芸術企画課文化力活用創生担当課長)

事務局 安部知(委員兼務 / 安部良アトリエ一級建築士事務所)

宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)

大森晃子(崇仁デイサービスうるおい 管理者)



プロジェクトを継続していくことの難しさも抱えながら、それでもいつもそばで支えてくださるたくさんの方々のお力や励ましの言葉のお陰で、2023年度の活動を進めることができました。特に、挿し木にしたアジサイを3年越しに崇仁の地面に戻すことができたことは、私の中でとても大きな出来事でした。また、作品制作において在宅ワークを取り入れるなどの新たな展開を実現できたことも、大きな一歩だったと思います。これからも、迷う時は立ち止まり、じっくり考えて、まわりにいてくださる方々に相談をしたり、これまでを振り返り、丁寧にプロジェクトを育んでいきたいと思っています。

山本麻紀子(アーティスト)



挿し木によって育てられた紫陽花が80人以上の参加者に見守られ地植えされたことは、今年度の活動のハイライトだと思います。その傍で、誰も取り残さない地域づくり活動として大きなピクニックマットの制作が行われました。一見関係のなさそうな2つですが、挿し木によって育てられている植物達は、もともと地域の人たちがこの地に植え育ててきた植物です。この地に暮らしてきた人たちの記憶を繋いでゆくこと、今この街で生きている人々を繋いでゆくこと、誰も取り残さない地域づくりのためにどちらも大切な眼差しだと思います。

安部良(安部良アトリエ一級建築士事務所)



2023年、崇仁地区での学校建設がひと段落し、あたらしい街の風景が見えてくるようになりました。「すっかり変わってしまった」と思う方がいらっしゃる一方で、これからこの風景を当たり前ものとして、学校生活を送られる学生さんや関係者の方もたくさんいらっしゃるのだらうと想像します。先日、できたばかりの綺麗な建物を見ながら、すくすくにはそうした人々のあいだを取り持つ役割があるのだなと、あらためて思いました。この活動を支えてくださる皆様への感謝の気持ちを持って、次年度も引き続き取り組んでいきたいと思っています。

安部 知(安部良アトリエ一級建築士事務所)



開始から3年、京都芸大も移転した今年度。初めて挿し木を地域に植え戻すことができ、ほっとしています。その会には道に溢れるほどの人が集まり、崇仁すくすくセンターが地域に根付く取組になりつつあることを実感しました。ほがらか隊の皆さんや地域の方々毎週少しずつ作られた大きなピクニックマットも完成。お披露目会で様々な方に見ていただけ嬉しいです。これからも更なる挿し木の植え戻しや、新たな作品制作など、地域の皆さんとのやりとりを深めて取組を着実に進めていきたいです。

四元秀和(京都市文化芸術企画課文化力活用創生担当課長)



2023年度も活動を通して、様々な方と出会い、たくさん学びを得ることが出来ました。これまで、人と人とのつながり方を、対面という形で考えてきました。しかし、作品を通してつながること、これはもしかしたらこちらの自己満足なのかも知れませんが、一方通行でもつながっていることが出来ているのであれば、それも立派なつながりなのではないかと感じています。これからも地域と共に活動を続けていきたいと思っています。

宮崎彰子(京都市下京・東部地域包括支援センター センター長)



デイサービスでこつこつと布を切ったり編んだり巻いたりしたピクニックマットが完成し、利用者様達とお披露目会を見に行きました。「あんなに大きくなってると」「すごいな～見事やわ～」本当にその通りです。プロセスが尊いのは福祉もアートも共通しているのではないかと最近思っています。そしてまた一つプロセスを感じるプロジェクトとして花壇づくりが始まりました。植物や場所を介して、人が社会とつながっていると感じられる、そんな取り組みがわたしたちにどんな効果を表していくのか楽しみにしています。

大森晃子(崇仁デイサービスうるおい 管理者)

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

2023年度

主催：崇仁すくすくセンター実行委員会

共催：崇仁デイサービスうるおい 京都市下京・東部地域包括支援センター

協力：崇仁自治連合会 崇仁児童館 崇仁発信実行委員会 崇仁高瀬川保勝会 京都みどりクラブ

京都市下京いきいき市民活動センター（指定管理者：有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所）

京都市立芸術大学構想設計専攻 京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL2023-」+ 芸術資源研究センター

下京区ふれあい事業実行委員会

助成：京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業



崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）

2023年度活動記録集

発行：崇仁すくすくセンター実行委員会

デザイン：カズマキカク

印刷：株式会社プリントパック レトロ印刷JAM

発行日：2024年3月

著作権法で定められた範囲を除き、無断での複製、複写、転載を禁じます。

※本プロジェクトは、2019-2020年度HAPS主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環としてスタートしました。

崇仁すくすくセンターウェブサイト sukusukucentre.org

ご意見・ご感想などは以下メールアドレスまでご連絡ください。

contact@sukusukucentre.org